

第 17 回 東海村地域公共交通会議

【日 時】 平成 29 年 12 月 26 日(火) 13 時～

【場 所】 東海村役場 原子力視察研修室

【出席者】 (委 員) 出席 21 名／欠席 2 名

1. 開会(まちづくり推進課)

2. あいさつ

(萩谷副村長)

- ・ みなさんこんにちは。副村長の萩谷でございます。本日は、年末の大変お忙しい中、第 17 回の東海村地域公共交通会議にご参加いただきましてありがとうございます。
- ・ 本村の公共交通は、ご承知のとおり、新たな移動手段として路線バスが加わり、デマンドタクシーと合わせて、多様な交通手段を選択できる環境が整いつつあります。公共交通の利用者は着実に増加しており、延べ利用者数年間 10 万人も見えてまいりました。これも、本会議のメンバーの皆様と共に取り組んできた大きな成果であり、改めて感謝申し上げたいと思います。
- ・ 本日は、公共交通会議で初めての取組みとなりますが、みちのりホールディングスの大下篤志さんに講演をいただきます。みちのりホールディングスは茨城交通の親会社であり、12 月 1 日からは日立電鉄交通サービスも傘下に入っております。これまでの経験と実践から、バスの取り巻く状況やこれからの可能性についてお話しいただけるものと思いますので、本村のこれからの活かしていきたいと考えております。
- ・ 本日のメイン議題は来年 4 月に行う再編に向けた協議となります。委員の皆様方から忌憚のないご意見を頂きたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 話題提供

みちのりグループの地域公共交通活性化(バス事業の生産性向上)の取組み

講師：株式会社みちのりホールディングス ディレクター 大下 篤志 氏

4. 協議事項

(1)公共交通の利用状況について

○下記資料に基づき説明

(資料 1)公共交通の輸送実績【平成29年度】

(2)地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について(地域内フィーダー系統確保維持計画)

○下記資料に基づき説明

(資料 2) 平成 29 年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

(3)公共交通再編の方向性について

○下記資料に基づき説明

(資料3)平成30年度に向けた公共交通の課題と方向性について

(資料3-1)平成30年度バス路線の再編について(案)

○質疑・意見・コメント

[路線バスについて]

(委員)東海駅西側エリアの路線新設について、案①(東海駅西口～笠松運動公園循環線)と案②(東海駅東口～笠松運動公園循環線)は、時間的にどのくらいの違いがあるのか？

(事務局)案①と案②の一周の差は、5分くらいである。交通渋滞等により時間帯によっては前後するが、さほど変わらない。

(委員)そうすると、東海駅東口に行く方が利便性が高いのではないか。

(委員)南台ルートを増便の検討をしていただき感謝する。南台自治区においては、まちづくり推進課・茨城交通と協力しながら、路線バスの乗車促進を積極的にやらせていただいている。乗車促進の活動をしている副次効果として、南台自治区の住み替えが進んでいる。6件くらい住み替えがあった。

(委員)西側エリアの新設について、案①②③④のどれかに絞らなければいけないという訳ではなくて、組み合わせることは可能か？

(事務局)一つの案に絞り詳細を詰めていきたいと考えている。ダイヤや運賃も含めて次回の会議に提示したい。ただ、経費の問題もあり1路線しか運行する余裕がない。路線を組み合わせることで各路線の利便性が下がるよりは、一つの路線に絞り利用促進も含めて利用者を増やしていきたい。更に可能性が見えてきた中で、次の路線というような考え方を取っていきたいと考えている。

(委員)その考え方を否定するわけではないが、例えば案①と案②を比べると、案①は駅に直接行き、案②はイオン・山新を通る買い物の利便性を追求した路線になっていると思う。朝夕の通勤・通学の時間帯はできるだけ早く案①②のエリアの人を駅に運び、電車で通院している人を駅から病院へ運んだ方が良い。また、お昼の時間は買い物の需要が見込まれる。案①②は5分の差ではあるが、電車に接続できるかできないかが違ってくる。時間帯によって需要を見て路線を組み合わせるという考え方もある。

(事務局)ダイヤ設定の可能な範囲で柔軟に検討していきたい。

(委員)2年前に西側の路線の調査をしていた当時は、沿線の住民の利用がほとんどなかった。事業所の方、学生が多かった。今回西側路線を新設するのであれば、地域の方にバスの利便性を認めていただくことを一番に考えていかなければいけない。そうすると集中的にある程度利便性の高いところからスタートする、という考えは非常に納得のいくところである。「もし時間的に間に合えば、地元の人が望んでいるものができていきますよ」ということを地域の方に理解していただくために、事務局でできることをやっていただくとさらに効果的かと思う。

(事務局)いただいたご意見を受けて、様々な角度で新しいことを検討していきたい。時間的制限はあるが、やれることはやりながら次回の会議で提案させていただきたい。

[デマンドタクシーについて]

(委員)バスの導入後、利用者が減ってしまうのではないかと心配はあったが、デマンドタクシーの利用者は、バス利用者とは少し違い高齢者が中心である。また、病院の帰りの予約が問題になっているので、これからも方向性で示されたようなドライバーのチェンジ制などを導入していただき、より多くの方がデマンドタクシーを活用できればと思う。

(委員)利用時間の 30 分延長について、前々から要望があった。17 時台になると渋滞の心配があり、なかなか導入に踏み切れなかった経緯はあるが、これから利便性が上がるということで利用者にとって良いのかなと思う。ただ、予算の面が心配である。

(委員)病院の往復予約ができなくて困る。もう少し柔軟な対応ができないか？

(事務局)利用者からも同じような声は聞いている。往復予約が取れないという決まりは新たに設けていない。往復予約はどこに行く場合でもとれるが、病院や薬局は時間が読めずに予約キャンセルに繋がる現状がある。より多くの方に利用していただけるよう、オペレーターと話し合い、病院に関してはある程度時間がわかってから予約して欲しいというお願いをさせていただいている。

[総合福祉センター絆送迎バスについて]

(委員)最近の利用者の人数が少なくなっているの、高齢者クラブに周知を図っているところである。以前は中型バスを利用していたが、現在はワゴン車を利用している。利用者の人数が増えた場合は、中型バスの運行もまた増えてくると思うので、社会福祉協議会としても協力していきたい。

[運転免許の返納について]

(委員)運転免許の返納者が、どういった理由でどの支援内容を選んだのかという調査を事務局にしていたらと思う。今後、高齢者の割合が増えてくる中で、公共交通機関の重要性は増すので、地域の中で少しでも公共交通機関を利用してもらい、存続・拡大に向けていこう、という取り組みは心強く思っている。

(事務局)運転免許返納は防災原子力安全課が担当しており、今年の 12 月から始まった。我々としても、支援内容にデマンドタクシー、路線バスが関係しているので、担当課と連絡を密にしながら、利用実績としてどのような使われ方がされているのか、データ収集をしていきたい。

[事務局最終確認事項]

(事務局)来年度の再編の詳細案を詰めていくにあたり最後に確認させていただきたい。路線バスについては、茨城東病院線は朝増便の方向で検討する。海浜公園線については、4 月以降も継続するが今後の利用状況を注視していきたい。F 須和間・南台・緑ヶ丘循環線については、17 時台の新設ということで検討を進めて詳細案を示させていただく。西側の新設については、国体開催も見据えて案①②を中心に、どのくらいのダイヤが可能かを茨城交通と話を詰めて次回の会議にルート・ダイヤ・料金設定を再度提出させていきたいと考えている。デマンドタクシーについては、提示したとおりに詳細を詰めていきたいと考えている。

→了承

5. 閉会(まちづくり推進課)

- ・次回は1月末の開催を予定しています。後ほど改めて通知させていただきます。